



ZERO Malaria 2030 Campaign Report:10/10 Reception Party

ZEROマラリア2030キャンペーン

事業実施報告書（2017年10月1日～12月31日）

ハイライト:

- メディア、民間企業、NGO、ユースなど130名あまりが参加
- アーティストによるライブ開催
- イラストレーターの牛嶋浩美氏のイラストを用いた映像で世界観を表現
- マラリア制圧に取り組む世界の第一線の専門家も参加したトークセッション開催
- 「something orange」をドレスコードにすることで会場の一体感を演出

作成: ZEROマラリア2030キャンペーン実行委員会

「something orange」でマラリアに「NO」を キャンペーンレセプションパーティ開催



2017年10月10日、赤坂プリンス クラシックハウスでZEROマラリア2030キャンペーン実行委員会主催のレセプションパーティが開催され、「2030年までにアジアでのマラリアをゼロにする」ことに賛同した民間企業、研究者、NGO、学生、メディアなど約130名が参加、「何かオレンジを身につけて」との呼びかけに対してネクタイやカフス、アクセサリー、洋服でオレンジを身につけや華やかな場となった。

会場ではイラストレーターとして活躍する牛嶋浩美氏が描いたデザインを用いた映像を上映。牛嶋氏は2016年の西アフリカのセネガルで配布した蚊帳のパッケージに蚊帳の使い方などを入れ込んだオリ

ジナルデザインを提供しており、そのイラストを用いた映像は、「2分にひとり、子どもがマラリアで命を落とす」現在の社会へのメッセージとなった。

その他会場では専門家も登壇したトークセッションや沖縄出身の歌手、普天間かおりさんのミニライブが開催。トークセッションはマラリアに関するクイズを盛り込み、フロアからも参加できる形式にすることで盛り上がりを見せた。

ZEROマラリア2030キャンペーンでは今後もイベントやSNSでのキャンペーンなどを通じてマラリアのない世界作りに向けた広報キャンペーンを展開する予定。



パーティ概要

- ◇ 日時: 2017年10月10日(火)
18:30 OPEN
19:00 パーティー開始
21:00 終了
- ◇ 場所: 赤坂プリンス クラシックハウス
東京都千代田区紀尾井町1-2
東京ガーデンテラス紀尾井町内
- ◇ 参加費: 1人7,000円
- ◇ 参加者数: 130名
- ◇ 司会: 塩田 真弓(テレビ東京)
- ◇ 主催: ZEROマラリア2030キャンペーン実行委員会(事務局: 認定NPO法人Malaria No More Japan内)
- ◇ 協賛: シスメックス株式会社

PROGRAM

- 主催者挨拶 神余隆博(ZERO マラリア2030 キャンペーン 実行委員会委員長)
- 来賓挨拶 外務省領事局長 相星孝一
- 委員会より挨拶 長崎大学グローバルヘルス研究科 北 潔 乾杯 オスマン・サンコン 歓談
- トークセッション「なぜ日本がマラリア撲滅を支援するのか、2030年までにマラリア撲滅を目指すのか」
■パネリスト■
Malaria No More Japan 理事 長島美紀
世界基金投資戦略効果局長 國井修
東京女子医科大学教授 杉下智彦
■ファシリテーター■
日経BP社取締役兼日経コンサルティング社長 酒井綱一郎 歓談
普天間かおりさんによるライブ
ご挨拶 Malaria No More Japan 専務理事 水野達男
写真撮影
終了

企画・参加案内者リストと発送



↑ 事前招待状

Something Orange
を身につけて

「ゼロマラリア」への

意志表明を

呼びかけ



会場外観

今回の企画についてはMalaria No More Japan事務局内で実施するのではなく、外部コンサルタント起用し、特にこれまでMalaria No More Japanで開拓できなかったソーシャルビジネスへ関心を持つ若い層やメディア、民間企業に対する呼び込みを目指すこととなった。

事前の話し合いの中で、今後本レセプションパーティが毎年開催されることを目的として、「このパーティに行くのが楽しい」という印象及び現在弊団体で2017年末より開始予定のマンスリーサポーターへの誘引を目指し、気軽にマラリア制圧の取り組みに取り組める「場」を提供すること確認した。

特に会場を赤坂プリンス クラシックハウスで開催することで、「ここに来たい」と思うインセンティブを引き起こすことを目指した。

参加者リストはMalaria No More Japanでこれまで付き合いのある個人・団体及び外部コンサルタント

の持つソーシャルネットワーキングを組み合わせ、約600~700名に主に招待状でお送りした。

今後の展開を考え、メディア関係者及びMalaria No More Japanの中でとりわけ密接なつながりのある方については招待扱いとし、それ以外の方は参加費のお支払いをお願いする形式となった。

主な招待者は下記の通り

- ⇒ メディア関係者
- ⇒ 日経アジア感染症会議参加企業
- ⇒ グローバルファンド関係者・団体
- ⇒ Malaria No More Japanの事業展開先
- ⇒ コンサルタントによるソーシャルネットワーキングリスト

受付は別途外部に設け、随時問い合わせなどの受付やリマインドなどを実施した。

会場設営・演出

会場設営については会場の持つ雰囲気を活かし通常のイベントのようにホワイエでのブース出展ではなく、会場外のホワイエでもブースを出すのではなく、パネルをイーゼル展示を行うほか、協賛社であるシスメックス株式会社様の展示もパネルの展示のほか、会場のテーブルを用いた展示にするなど、会場雰囲気に配慮した設営が行われた。

また、会場にはステージを設け、キャンペーンバックパネルを置くことで、「何のイベントなのか」明確にするよう試みた。パーティが立食だったこと、および映像などを流すスクリーンが正面からみて左右にあるため、その点を配慮した設営をどうするか検討の上机や展示物の配置が決定された。



会場内にはマラリアについて知る一つの試みとして蚊帳の展示が行うこととし、住友化学株式会社の「オリセツ®ネット」が展示され、参加者が自由に中に入って体験することができよう工夫された。

司会進行

司会についてはテレビ東京の塩田真弓さんをお願いしたほか、番組構成作家などをされている方に進行台本作成を依頼することとなった。

話し合いの中で、2時間のイベントの中でアーティストのライブ以外に行われるパネルディスカッションについては、参加者がマラリア専門家ではないことを考慮し、クイズ形式でわかりやすくマラリアを紹介。その合間に登壇者よりマラリアに関するコメントを行う方式とした。

また、協力いただいた牛嶋浩美さんのイラストをもちいた映像を塩田真弓さんの朗読に合わせて紹介することで、マラリアがかつて日本にもあったこと、そのマラリアが日本からなくなったこと、その歴史を踏

まえ、日本がマラリア制圧に向けて産官学連携して取り組むことが可能であるというメッセージを作り出した。



映像制作

演出の一環として映像制作が行われた。映像はこれまでMalaria No More Japanの活動に賛同し、イラストを提供いただいた牛嶋浩美さんのイラストをベースに、子どもたちの笑顔をちりばめ、子どもが笑顔で暮らせる世界を作ることを訴える内容となった。

また、会場では制作した映像のほか、協賛社の映像を歓談中にも流すなど、イベントの合間にも参加者に紹介できるように調整された。

【牛嶋浩美プロフィール】

イラストレーター。1997年、ユニセフのカードの絵を提供し、以後毎年ユニセフにデザインを提供。2004年と2006年にユニセフのクリスマスカードの絵に選ばれる。2009年2月、ユニセフ東ティモール事務所と東ティモール教育省による教科書作りに協力。東日本大震災の際は被災地での絵本作りのワークショップを通して心のケアに従事。2011年10月、絵本「守りたいもの」を普天間おおりさんと出版。2013年9月、ユニセフの絵本「ちきゅうからのしつもん」を手掛ける。<http://hiromiwork.com/hiromiwork.html>



2016年セネガルの蚊帳配布に参加した牛嶋浩美さん

配布物制作・準備

今回当日配布用に以下のものを用意した。

- ◇ 当日プログラム(キャンペーン紹介、プログラム及び登壇者略歴、協賛社広告)
- ◇ 当日参加者リスト(当日最終データチェックの上印刷、配布)
- ◇ 協賛社の資料(協賛社が準備、手配。終了時に入り口付近で配布した)
- ◇ Malaria No More Japanの資料

当日プログラムについてはテキストをMalaria No More Japanで準備の上デザイン、協賛社や関係者の確認を得た上で印刷を行った。

協賛社であるシスメックス株式会社様の資料は紙の配布物のほか、ペンや消しゴムを準備いただき、終了後に同社の袋に入れて配布した。なお、袋にはMalaria No More Japanの資料も同封させていただいた。



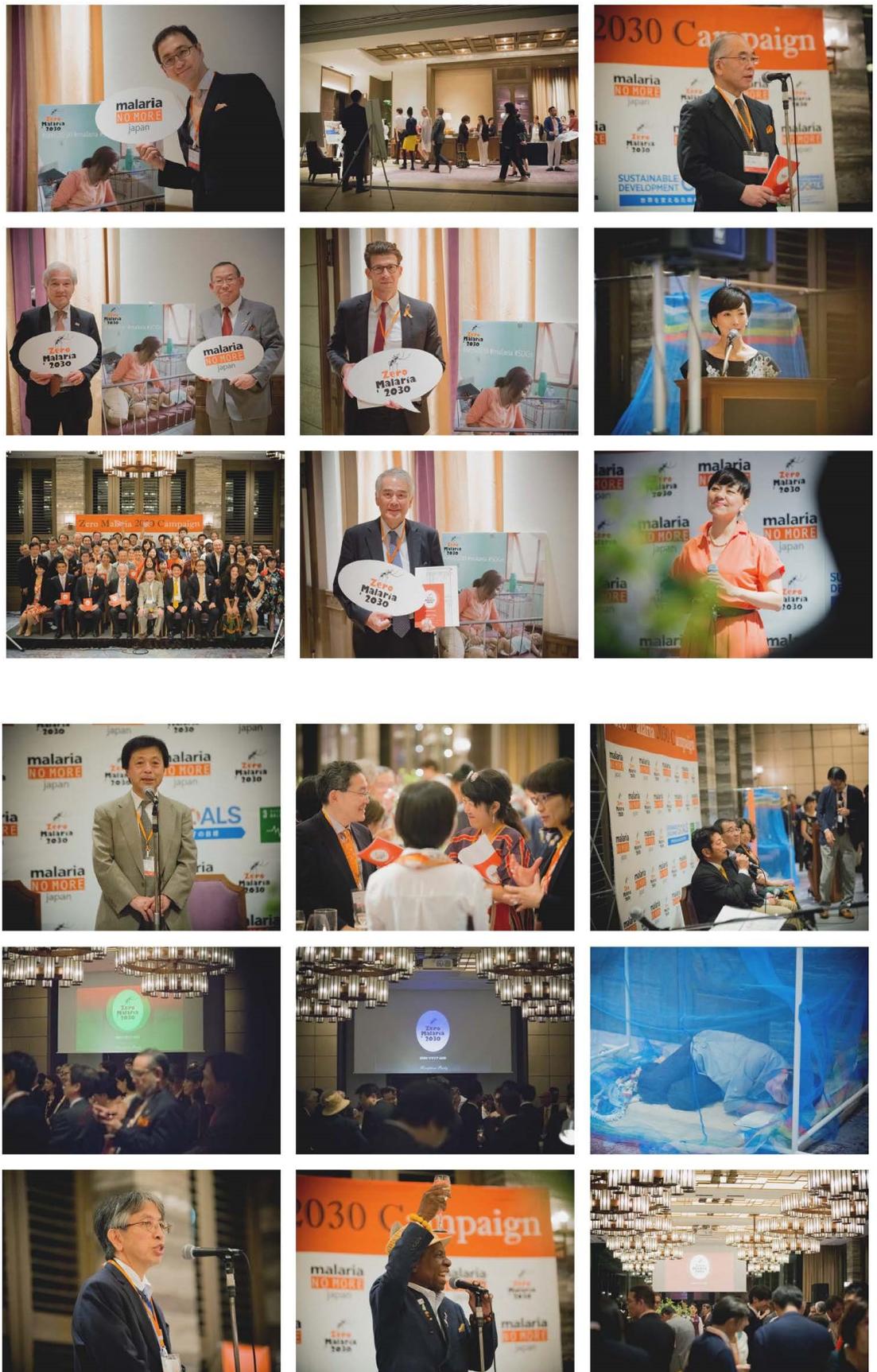
↑(左から配布パンフレット表紙、p2-3, p4-5)



↑(左から配布パンフレットp6-7, p8-9, p10-11)

ZERO Malaria 2030 Campaign Report:10/10 Reception Party

当日風景





広報効果

本パーティではSNSによる情報拡散が多用された。とりわけ外部コンサルタントによるSNSの発信により、複数へのリーチが試みられたほか、終了後も多くの方が「いいね！」をクリックするなど、予想以上の拡散効果となった。

また招待者の中でいわゆるインフルエンサーもいたことから、彼らによる情報発信も行われることで普段リーチしない層へ情報として本イベントが発信されるなど幅広い効果がみられた。入り口でキャンペーンタイトルなどが書かれた吹き出しをもって写真を撮ることを可能にしたことで、参加者がイベント参加の写真を撮り、SNSに投稿する誘引の仕組みも可能にした。

他方、パーティ開催時が衆議院解散と総選挙の公示後だったこともあり、多くのメディア関係者が選挙取材となったことから、当初予定していたメディア関係者の参加は不可避免的に困難となった。

Malaria No More JapanのSNS投稿

- ◇ 8/31 FB 372人ヘリーチ(12いいね)
- ◇ 8/31 FB 269人ヘリーチ(10いいね)
- ◇ 9/15 FB368人ヘリーチ(18いいね)
- ◇ 10/19 FB(写真掲載)918人ヘリーチ(29いいね)

関係者の主なSNS投稿

- ◇ 9/9 FB 55いいね
- ◇ 9/15 FB 38いいね
- ◇ 9/20 FB 80いいね
- ◇ 10/5 FB 41いいね
- ◇ 10/8 FB 68いいね
- ◇ 10/10 FB 30いいね
- ◇ 10/10 FB 84いいね
- ◇ 10/11 FB 180いいね
- ◇ 10/10 FB 43いいね
- ◇ 10/10 FB 155いいね

2017年12月11日開催夕食会でパネル掲出

2017年12月11日に都内で認定NPO法人Malaria No More Japanの主催で開催された同団体設立5周年記念パーティでは、ZEROマラリア2030キャンペーンの趣旨に賛同、キャンペーンのロゴ制作やプロボノでのご支援を表明いただいている株式会社電通様のご協力を得て、同社グループが推進する「コモングラウンド(common ground)」およびマラリアノーモアUK、ジャパンとキャンペーンを進める予定であることを紹介するパネルを制作、掲出いただいた。

同社とは今後も連携した取り組みの実現に向けて、継続して協議を行う予定である。

コモングラウンドについては
www.dentsu.co.jp/csr/commonground.html参照。



ZEROマラリア2030キャンペーンとは



ZEROマラリア2030キャンペーン
実行委員会事務局

認定NPO法人Malaria No More
Japan内
東京都千代田区麹町3-7-4 8階

電話: 03-3230-2553

FAX: 03-5275-2020

電子メール: info@mnmj.asia

www.zero2030.org

**日本から世界へ、「マラリアのない世界」を目指す
取り組みを進めてまいります**

2012年に米国に本部を置く国際NGO「Malaria No More」のアジア地域における拠点として活動を開始したMalaria No More Japanは、2017年10月26日に5周年を迎えます。5周年を迎えるにあたり、セカンドステージに向かうべく国内において官民学を巻き込んだより幅広いマラリア制圧の普及啓発活動の可能性を検討してきました。

「人類は感染症を克服する偉大な瞬間を目にしようとしている」と述べたのは、ビル・ゲイツですが、近年マラリアをはじめとする蚊が運ぶ病気による死者数が劇的に減少しています。2000年から2010年までの10年間で死者数は60%減少し、Malaria No More Japanが設立された2012年には「1分に一人、マラリアが原因で子どもが死亡していた」のが、2017年現在「2分に一人」にまで減少しました。

**しかしそれでもなお、世界人口の約半分、32億
人がマラリアの脅威に曝されています。**

これまでグローバルヘルスの分野で大きな貢献をしてきた日本にとって、明確で具体的な目標を持ち、この数値達成への取り組みを具体化することは大きな意味を持ちます。また世界は、日本の試験・研究機関や企業に対しさらなる研究開発投資を促し、日本政府に対し国際機関への継続的な拠出を通じたグローバルヘルス分野への一層の貢献を強く期待しています。

さらに、近年加速化するグローバル化と気候変動が、病原菌の移動と蚊の生育域を増大させていること、その結果、日本国内も「蚊が運ぶ病気」の脅威にさらされている現実についてより深く認知し、「蚊が運ぶ病気によって命を落とす人をゼロにする」ことの重要性への認識が浸透することが必要です。

私たちMalaria No More Japanは5周年という節目の年を迎えるにあたり、「アジア地域でのマラリアによる死者数をゼロにする」国際社会の決意を応援するキャンペーンの開始を決定いたしました。

キャンペーンでは企業や国際機関、研究者、政府はもちろん、著名人、メディア、市民組織、協力団体など幅広い分野の方々と連携し、蚊が運ぶ病気とは何かをわかりやすく伝えるとともに、キャンペーンを通じて具体的なアクションや支援プログラムなどを展開します。

日本から世界へ、「マラリアのない世界(ゼロ マラリア/ZERO MALARIA)」を目指す取り組みを進めてまいります。

キャンペーン実行委員会就任状況(12月31日現在)



キャンペーンは実行委員会形式で運営されています。
*2017年10月10日現在(50音順、敬称略)

【運営委員長】

◇ 神余 隆博(認定NPO法人Malaria No More Japan理事長)

【運営委員】

- ◇ 鵜尾 雅隆(認定NPO法人日本ファンドレイジング協会代表理事)
- ◇ 大河原 昭夫(公益財団法人 日本国際交流センター理事長/グローバルファンド日本委員会ディレクター)
- ◇ 尾身 茂(独立行政法人地域医療機能推進機構理事長)

- ◇ 北 潔(長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科長)
 - ◇ 木村 泰政(UNICEF 東京事務所 代表)
 - ◇ 近藤 哲生(国連開発計画(UNDP)駐日代表)
 - ◇ スリングスピー BT(公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 CEO兼専務理事)
 - ◇ 武見 敬三(参議院議員)
 - ◇ 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク
- 【オブザーバー】
- ◇ 長谷川 学(内閣官房国際感染症対策調整室 新型インフルエンザ等対策室 企画官)